

開校 150 年にちなんだ記事を紹介するコーナーの第 2 回は、「悲願の学校統合」と「校歌の制定」です。（「赤江教育百年誌」を参考にしています）

「悲願の統合、一村一校へ（その 1）」



「赤江教育百年誌」に、「幕末にはかなりの寺子屋があった。市誌によると、赤江は安来と並んで十四の寺子屋が数えられる。・・・赤江にはかなりの寺子屋があり、多くの子どもたちが勉学に励んだことは事実であろう。」とあります。教育熱心な土地柄であったことがうかがえます。



統合記念碑（今もあかえっ子クラブ前に建っています）

明治 6 年 5 月 23 日に法雲寺本堂に東赤江、西赤江、上坂田、中津の四村連合の小学校が開設されました。当時は、他にも小学校が点在し、しばらくは別々に教育が行われていました。明治 22 年に赤江村が誕生しますが、学校の変遷もそれに軌を一にして小さい小学校が次第に統合され、やがて、東赤江、今津の 2 校で地域に即した着実な教育実践が進められていたようです。

そして、昭和 6 年、「悲願の統合」となる赤江村尋常小学校校舎が現在地に建てられ、ついに一村一校となりました。「17 名の教員と 600 名を超す生徒で新しい校舎への移転を完了したのは、昭和 6 年 11 月 9 日」と記録にあります。この時に建てられた木造校舎は、「赤江村国民学校」「赤江村立赤江小学校」「安来市立赤江小学校」と名称を変えながら、

現在の鉄筋の校舎が落成した昭和 52 年まで半世紀にわたり学び舎として使用されました。



昭和 6 年に現在の地に建てられた悲願の統一小学校。木造校舎は昭和 52 年まで使用されました。



「校歌の制定」～統合から4年後のこと

昭和10年6月、かねてより申請中であった校歌が文部省に認可され、松江中学に在職中の木島俊太郎氏の作詞と、島根師範の下野米氏の作曲による校歌が制定されました。多くの小学校では、戦後、歌詞などの関係で校歌を制定し直していますが、赤江では、一貫して「誠の道」が歌い継がれています。

東昇降口前の築山にある校歌碑は、開校百年ならびに統合四十年を記念し、昭和46年2月に建立されました。作詞者の木島俊太郎氏の直筆を刻したものです。校長室の書架には、この碑の裏面の下書きと思われるものがありました。開校百年を祝う当時の皆様の熱意が伝わってくる感じがしました。



「みのりゆたけき千町田の・・・誠の道を一筋に」という校歌三節は、児童職員保護者の総意により二十一世紀に生きる赤江小学校児童の信条にしたいと建立されたものです。

「千町田」～昭和7年に発行された国語の教科書に登場する風景

昭和7年に文部省から「サイタ サイタ サクラガ サイタ」ではじまる国語読本が発行され、国定教科書として全国の小学校で使用されました。「サクラ読本」と呼ばれ「日本で初めての国語の教科書」と讃えられることもあるこの教科書を編集したのは、安来市（広瀬町）出身の井上越先生です。

この国語読本の中にある「山ノ上」には「ツヅク タンボノ ソノ サキ ハ、 ヒロイ、ヒロイ ウミダッタ。・・・」という文章があります。この風景は、広瀬の山から「千町田」を眺めたものではないかといわれています。当時全国の小学生が、赤江が登場するこの教材で国語を学んでいたと思うと、誇らしい気持ちになります。

